

10/15

琵琶湖博物館ホール

日英同時通訳あり

参加無料(要参加申込)

ハイブリッド形式

会場120名/ライブ配信

国際シンポジウム2022

“未来につなぐ湖沼の価値”



2022 INTERNATIONAL
SYMPOSIUM



第1部(午前) 湖沼のエコツーリズムコンテスト
第2部(午後) 国際シンポジウム2022

ご挨拶

この度の国際シンポジウム「未来につなぐ湖沼の価値」に多くの皆様方のご参加をいただき心より感謝し、歓迎申し上げます。

私達「国際湖沼環境委員会」(ILEC)は、第5回国連環境総会(2022年3月)において採択された「持続可能な湖沼管理」に関する決議を受けて、国際社会における持続可能な湖沼流域管理の一層の推進に努めています。

持続可能な湖沼管理及び資源の持続可能な利用に向けては、「琵琶湖モデル」として象徴される「住民と一体となる取組」が湖沼環境の重要性の理解を幅広い関係者に拡げていく上で不可欠なものとなっています。このため、私たちの身近な文化的サービスの側面から湖沼管理につながりを有するエコツーリズムを切り口として、持続可能な湖沼管理の一層の発展に向けた議論を深め、その結果を来年の第19回世界湖沼会議等につなげていきたいと考えています。

本シンポジウムの開催にあたりご協力いただきました国内外の関係者の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、本シンポジウムにおける議論が、持続可能な湖沼管理の実現に向けた活動の一層の推進に貢献できることを願っています。



ILEC理事長
竹本 和彦

第1部(10:00~12:30)

湖沼のエコツーリズムコンテスト

世界湖沼会議等で発表する若い世代の活動を促し、グローバルに活躍する人材育成に貢献します。

<プログラム>

- 10:00-10:06 開会挨拶 - ILEC理事長 竹本 和彦
- 10:06-10:11 来賓メッセージ - 滋賀県 三日月 大造 知事
- 10:11-10:13 オープニング・琵琶湖のエコツーリズム映像
- 10:13-10:15 審査員紹介
- 公益社団法人びわこビジターズビューロー会長 川戸 良幸 氏
 - 平安女学院大学教授 山本 芳華 氏
 - 滋賀県立琵琶湖博物館副館長 亀田 佳代子 氏
 - 滋賀県琵琶湖保全再生課長 中嶋 洋一 氏
 - ILEC科学委員 Ajit Kumar Pattnaik、Alejandro Juarez Aguilar

- 10:15-11:15 湖沼のエコツーリズム 最終審査
- 国内学生等4組のプレゼンテーション



投票

- 11:15-11:25 休憩

- 11:25-12:17 国内外のエコツーリズム事例紹介

海外事例：バラトン湖開発局 Erzsébet Sitku 氏

The International Ecotourism Society Jon Bruno 氏

国内事例：東近江市エコツーリズム推進協議会 事務局長 丸橋 裕一 氏

マキノ自然観察倶楽部 谷口 良一 氏



Erzsébet Sitku 氏



Jon Bruno 氏



丸橋 裕一 氏



谷口 良一 氏

- 12:17-12:19 エコツーリズムビデオセッション

- 12:19-12:25 審査・表彰

最優秀賞1組、優秀賞2組、特別賞1組 他 ILEC賞、視聴者賞

※最上位入賞者3名程度が「第19回世界湖沼会議(ハンガリー・バラトン湖)」に参加

- 12:25-12:30 講評

平安女学院大学教授/ILEC理事 山本 芳華 氏

第2部 (13:30~16:30)

国際シンポジウム2022“未来につなぐ湖沼の価値”

世界各地の湖沼にまつわるエコツーリズムを通して、湖沼の文化・歴史・景観・地域・生態系の価値を守り、価値を高め、未来につなぐ議論を展開します。

<プログラム>

13:30-13:35 挨拶 ILEC科学委員長 Walter Rast

13:35-14:05 基調講演1 (オンライン)

講演者:同志社大学教授 大和田 順子 氏

テーマ: “Biwa Lake to land integrated system”
Possibility of GIAHS&SDGs Tourism



14:05-14:35 基調講演2 (オンライン)

講演者:Global Nature Fund Thomas Schaefer 氏

テーマ:「海外におけるエコツーリズムと湖沼環境保全」



14:35-14:50 休憩

14:50-16:20 パネルディスカッション

テーマ:「湖沼の文化的サービスの持続可能な利用」

モデレーター:ILEC科学委員 Adelina Santos-Borja

パネリスト

- UNEP (人材育成) / オンライン

- インドネシア政府 (地域の参加)

「西スマトラ州におけるEco-Edu-Tourism」/ オンライン

- 環境省 (教育、法制度): 水環境課長 大井 通博 氏

- 滋賀県 (政策、MLGs): 滋賀県理事 三和 伸彦 氏

- ILEC副理事長 中村 正久

- ILEC科学委員 Sandra Azevedo



質問

16:20-16:30 総括

ILEC理事 高橋 康夫



琵琶湖博物館ホール前および別館 (ILEC) にて展示を行っております。
ぜひお立寄りください!

マザーレイクゴールズ

ホール前: 湖沼の主流化、世界農業遺産、Mother Lake Goals, MLGs

別館: ILECの活動、株式会社日吉 様、株式会社堀場アドバンスドテクノ 様

エコツーリズム トリビア

あなたは知ってる？



Q

エコツーリズムって？

A

環境省によると「地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組み」とされています。観光客に地域の資源を伝えることにより、地域住民も資源の価値を再認識し、地域社会そのものが活性化されると考えられています。

Q

エコツーリズムという言葉が生まれたのはいつ頃？

A

1980年代初頭

一般的に1982年のIUCN(国際自然保護連合)が「第3回世界国立公園会議(バリ・インドネシア)」で議題としてとりあげた時とされています。1990年代に気候変動や地球の限られた資源への関心が高まり、日本でも1991年に環境庁によりエコツーリズム推進のための検討調査が開始されました。また、国連総会により2002年が「国際エコツーリズム年」と定められました。

Q

エコツーリズム発祥の地はどこ？

A

コスタリカ

1980年代からコスタリカ政府が世界に先駆けてエコツーリズムを推進し始めたとされています。1990年代には世界一有名なエコツーリズムスポットとなりました。観光が産業になる前は、焼畑で農作物を育て生計を立てる人が多く、森林が失われていったそうです。そこで自然を守り、それを観光資源として観光客にPRし、産業に繋げていきました。

協賛企業・団体様のご紹介(順不同)

